

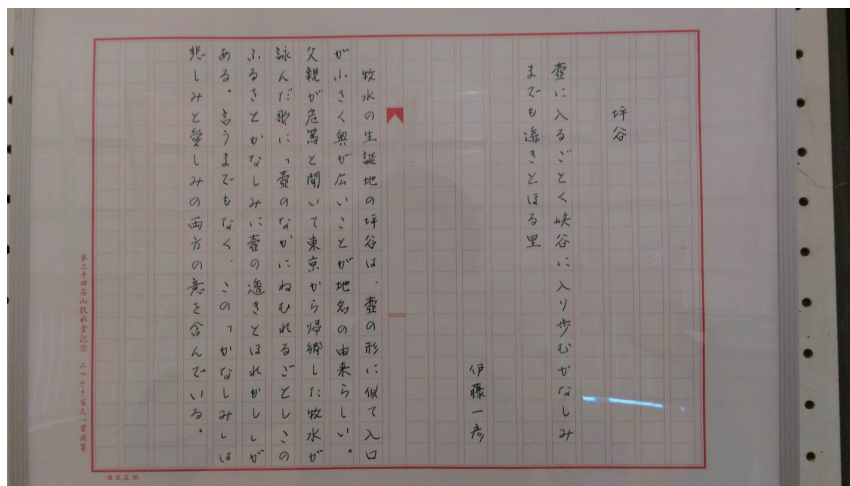
文学館だより

平成28年 6月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 68 - 9511

六月の山のゆふべに雨晴れぬ木の間になし日の流れたる
「独り歌へる」「別離」 収録

お礼

4月23日より開催してきました『みやざき百人一首パネル巡回展』が5月22日(日)をもって終了いたしました。期間中、市内外を問わず500名を超えるお客様にご来観いただきました。現代歌人100人の直筆原稿とあって大変見応えのあるものでした。ご来観ありがとうございました。



完成しました!!!

小冊子 「歳時記」



当文学館では、牧水生誕百三十年を記念して、昨年1年間『牧水 歳時記 歌人の愛した春・夏・秋・冬』を企画、展示してきました。

その集大成として、小冊子が完成しました。牧水の歌を季節ごとに分類したものです。

一度、見に来られませんか。

販売しております。

一季 500円
四季 2,000円

未公開作品もあります!!! 新収蔵品展示!

6月11日(土) ~ 8月28日(日)

前回の新規資料展以降、新たに収集した牧水ゆかりの品々を一挙公開します。

【遺 墨】

うちわ、色紙、半切等 5 点

【書 簡】

はがき、巻手紙 40 点

【写 真】

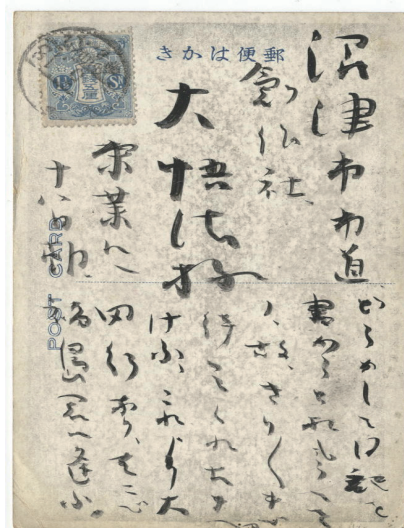
2 点

【その他】

中村柊花遺墨、写真、若山家貸金帳簿他 51 点 合計 98 点

大正十年
作

なまけつつ心く
るしきわが肌の
汗ふきからす夏
の日の風 牧水



期間中、作品を入れ替えながらできるだけ多くの品を
できるだけ多くの方に見ていただけるよう努めてまいります。
どうぞ、ご来館いただきご意見ご感想をお寄せください。 職員一同、お待ちしております。

牧水が最初に詠んだ短歌

読本・歌人 若山牧水より

梅の花今や咲くらむ^{わが}我^お庵の紫の戸あたり^{ういす}鶯の鳴く

身に^{まと}纏ふ綾や錦はちりひぢや蓮の葉の上の露も玉かな

かくれたる徳を行ひ^{あらわ}顕れぬ人は深山の桜なりけり

延岡中学校2年生(15歳)の頃、学校文集『校友会雑誌』が編集され、牧水は短文と短歌三首、俳句二句を載せます。牧水の作品が初めて活字となって発表されたものになります。この時掲載された短歌が上記の三首です。

3年生になり、雑誌投稿を知り投稿してみたところ、いきなり入賞。周囲を驚かせたといいます。

これらをきっかけに短歌のおもしろさに目覚め、短歌を作り始めます。

延岡中学校時代に500首を超える短歌を詠んだと記録に残されています。

ここから、のちの歌人若山牧水が誕生するのです。